ごあいさつ

陸別町は、道東のほぼ中央に位置し、女満別、釧路、帯広の各空港からも近く、観光地へ至る道路網も整備されています。2017年には陸別町小利別から北見市までの高速道路が開通し、オホーツク管内への移動が快適になりました。人口は約2,400人で酪農と林業が基幹産業です。町の面積の約8割を占める豊かな森林は上質な木材に恵まれ、林業のまちとして栄えてきました。農業は気候風土の関係で酪農・畜産が主流となり、大規模化されてきております。

夏と冬の寒暖の差が70度にもなる「日本一寒いまち」で、寒さを体感するイベント「しばれフェスティバル」は全国的にも有名です。環境庁（現環境省）の「星空にやさしい街10選」にも認定され、その澄みきった空や星は、銀河の森天文台の一般公開型としては日本最大級である115cmの大型望遠鏡で観測することができます。また、廃線となったふるさと銀河線の施設を活用した、観光鉄道「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」では、列車の運転を体験することができ、全国からたくさんの鉄道ファンが訪れております。また、オフロードレースやラリー大会も毎年開催しており、観光客の皆様にも喜ばれております。

本町では、今後も人口減少による社会保障や経済活動、地域のコミュニティなど幅広い分野への影響が懸念され、高齢化を見据えた安全で安心な町づくり、酪農や林業などの基幹産業はもとより町内の産業全体の担い手の育成・確保や雇用対策、地域交通の維持と確保などを重点に取り組んでいきます。

「小さくても清らかで輝きのある町」をめざし、人と自然にやさしく元気で持続可能なまちづくりを、これからも進めてまいります。

町長　野尻 秀隆

陸別町

町章　シンボルマーク

アイヌ語で「高く上がっていく川」という意味のリクンベツに由来していると言われています。

陸別町のデータ（2019年1月末現在）
□人口/2,386人 □世帯数/1,315戸
□町の面積/608.90㎢（東京23区の面積619㎢と同じくらい）

町長　野尻 秀隆

安全・安心に暮らせるために

「優しさのあるまち」「活力のあるまち」「創造していくまち」をまちづくりの基本姿勢として、自然と心豊かな“ふるさと陸別”づくりを提唱しています。陸別町の重要な財産である自然との調和・共存を念頭に、町民の要望や意向を反映し、個性豊かな町としてよりよい地域社会の確立を目標に、その実現に向けた計画の推進に努力する町政を心がけています。

RIKUBETSU

陸別町役場庁舎

陸別消防署

陸別町議会議場

陸別浄化センター

陸別浄水場

町花/福寿草（フクジュソウ）

町木/白樺（シラカバ）

町鳥/郭公（カッコウ）

国際姉妹都市/カナダ・アルバータ州 ラコーム市（1986年7月5日姉妹都市提携）

陸別町はこんなまちです。

日本一寒いまち

陸別町は、北海道・十勝地方の北部に位置し、周辺は小高い山に囲まれています。冬は放射冷却現象で、早朝に特に気温が下がります。2017年から2018年にかけての冬の最低気温は−28.7℃（2018年1月30日）。その一方で、2018年の夏の最高気温は34.3℃（8月1日）と、高温となる日もあります。過去の寒さの記録は、1977年2月1日に−35.5℃を記録（陸別地域気象観測所）。大学と町内の研究機関の共同研究では、2013年1月5日にトマム地区で−38℃を観測しています。

酪農と林業のまち

乳用牛は、陸別町の人口の約3.5倍に当たる約8,000頭（2017年）が飼育され、生乳を生産しています。町の面積の8割を森林が占め、林業が盛んです。陸別町は酪農と林業を基幹産業とするまちです。

星が降るまち

陸別町は、“星が降るまち”としても知られています。1987（昭和62）年度、環境庁（現環境省）の「星空の街」に選定され、1997（平成9）年度には「星空にやさしい街10選」に認定されました。この環境をいかした「りくべつ宇宙地球科学館（愛称：銀河の森天文台）」には、一般公開型天文台としては日本最大級の反射望遠鏡を備え、さまざまな観測、研究が行われています。

“しばれ”をいかすまち

北海道の方言で、ものすごく冷えこむことを「しばれる」と言います。「しばれ」は町にとってマイナスのイメージにとらわれがちですが、陸別町では、「しばれ」を味方にしています。町民が中心となって1982年（昭和57年）から開かれている「しばれフェスティバル」では極寒を楽しみ、公的研究機関や民間企業、大学による多種多様な実験・試験が、町内で行われ成果が社会に還元されています。

1966（昭和41）年の『暮しの手帖』、陸別の暮らしを追う

1966（昭和41）年発行の『暮しの手帖』に、当時の陸別町の生活が紹介されています。「日本紀行 その7 陸別　零下三十度の町」と題し、冒頭には「おなじ北海道から、この陸別の小学校に転任してきた若い先生の夫婦がある。はじめての冬の明け方、目をさましたらふとんのエリが、吐く息で真白に凍っていた。寒暖計をみると、部屋のなかで零下二七度である。若い奥さんは、ほんとうにこれじゃ、赤ちゃんがしばれてしまうとおもったそうである。」とつづっています。